

陸上運動部部便り

2008年8月号

七大戦

目次

1	七大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	2
1.3	女子主将の言葉	3
1.4	試合経過	3
1.5	試合結果	15
2	2008年度部内5傑 2008.8.3現在	20
3	自己記録更新者一覧 2008.6.16~8.3	22
4	主務より	22
4.1	応援OB・OG紹介	22
4.2	行事予定	23
4.3	訃報	23
4.4	連絡先(慶弔等)	23

1 七大戦

1.1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

男子は屈辱の6位 女子は大健闘の4位

今年の七大戦は例年より1週間遅く、仙台宮城野競技場で開催されました。30度快晴微風と、東京と比べると快適なコンディションでの試合となりました。

男子は主戦力が故障続出で厳しい前半シーズンでしたが、故障も癒え、2週間前からは本学では珍しく「絶対勝つのだ」と確認し合いながら過ごしました。また、前日の記録会でも魂魄のこもったレースが多くあり、「阪大圧勝・東大下位」の大方の下馬評を覆せる確たる感触を持って本戦を迎えました。阪大は別格とし、他大は伯仲しており、本学としては跳躍で確実に点を

重ね、400m・1500m・5000mで本番力を出せば名大をかわして実力で2位へ、阪大が純短でもたつけば70点前後での混戦の優勝争いに持ち込めるのでは、というのが目論見でした。ところが、最初に大量点を見込んだ走幅跳で、武安(4年)の故障が再発し記録無しに終わり万事窮してしまいます。それでも、110mHで主将・尾崎とインカレ選手の酒谷(2年)に続き、プラスで増本(2年)が拾われ、全員決勝進出を果たします。これで挽回と思った矢先に、3人決勝進出をもくろんでいた400mは小福田(4年)しか決勝に進めません。

以後も、苦戦を覚悟した選手が好パフォーマンスを出すも、期待していた2番手やエースが力を出しても、例年のないレベルの高さで拾われない展開が続きます。前半の山場の800m予選終了段階では、阪大は全く力を発揮できておらず、本学は名古屋・東北に絡んで上位に踏ん張りたいたところ、東北が円盤に続き砲丸投で上位独占と混戦から抜け出します。本学の砲丸の0点は想定外で、以降も純短系でリレー優先等のため予選棄権が続くなど、ここでも歯車が噛みあいません。棒高跳の土居(1年)の3m90の大幅なシーズンベストや、400mHの赤木(2年)、5000mの東(1年)の6位入賞など、下位での個人的躍進が多くあったものの得点には寄与せず、最終的には優勝種目なしの43点で6位に終わりました。

得点順位は相対的なもので、この結果も七大学のレベルが上がってきたことの表れでもあり、そのことは関係者として喜ばねばならないことですが、自校の順位という意味では無念の一言です。結局、混成選手の大車輪と投擲陣が力を発揮した東北大が、4×400mリレー優勝で花を添えての93.5点獲得の初優勝でした。本学の

今回の出場メンバーの多くは、個々人の力は出しており「よくやった」と誉めてやりたい部分もあるのですが、表彰台に届く底力が出せず、主砲が1本欠けただけで得点争いに絡めない状況となり、昨年を下回る忌まわしい結果となりました。(試合当日の高跳びの得点集計にミスがあったようで、北大に1点負けてしまいました)

一方、女子は、主戦力の日下、力をつけてきた楠木(3年投擲)、怪我から復調の高山(2年幅跳)の状況から昨年を上回る結果はほぼ確実でした。また、選手には「ここ3年の400m以上の得点者の分布をみれば、来年は10点程度上乗せは間違いない。来年は優勝戦線に絡むのだから、今年から「対校戦を戦う」という意識をしっかりと持つように」と念押ししての試合でした。

競技が始まってみると日下の予定通りのトラック2種目入賞に加え、100mで大久保(3年)がプラスで拾われての決勝進出、楠木が砲丸で8m24で3位入賞、高山も決勝ラウンド進出と、日下だけのチームでは無いとアピールする活躍をし、4×100mRでは阪大のバトンミスにも助けられ3位入賞を果たし、総合7点ながら4位となる躍進です。部員数が少なく全員が選手出場しても穴種目が出る厳しい台所事情ながら、来年は主幹校として誇りを持って戦える布石になったと思います。女子優勝校は只野(4年・中距離)、沼田(3年・短跳)の大エースを擁する北大が4点制の利を活かし危なげない優勝でした。

気迫だけで簡単に結果が変わるものではないですが、男子は一段階高い目的意識・闘争心を持たせることが必要です。来年は、跳躍、400系で主力がぬけチームバランスが厳しくなり、現3年生以下の意識改革が必要になってきます。女子は、今回できたことを皆で自信にして次にあたりたいと思います。

末筆ですが、当日は遠方からも大勢のOB・OGの皆様に応援にご足労いただきありがとうございました。結果が伴わず、心苦しいですが、変わらぬご声援をお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 尾崎翔

まさか、このような結果で終わるとは考えてもみませんでした。43点、総合6位。

去年までのように「ランキングでは1位。あとはいつも通りの力を発揮するだけ」という状況とは違い、ランキングでは6位、額面どおりではなく想像しうる最高のパフォーマンスを発揮することが優勝するための最低条件という今年の状況の中では違った戦い方が求められていました。そういう状況の中、各選手達はほとんどが事前ランキング以上の結果を残し続けました。個人個人の名前を挙げればきりが無いほど、全員が素晴らしいパフォーマンスをしてくれました。大久保(3年)の100mでの決勝進出や、赤木(2年)の自己ベスト更新や、渡邊の競り合いには身震いしたほどです。

対校戦の総合に関しては勝つことだけを目的にするべきだと伝えてきたこのチーム全体に対する評価は「負けた」という3文字で片付いてしまいます。また、事実としてこの「負けた」という事実を受け入れなければなりません。そしてその事実を受け入れ、悔しい思いを前向きな思いへと変えて、来年同じ轍を踏まないように力をつけていくことが大切だと思います。

このチームもあと2ヶ月です。残りわずかの対校戦で、必ずや最高の結果を見せ付けます。もう負けません。このチームの最後の最後まで、全力で共に走って下さい。宜しくお願いいたします。

1.3 女子主将の言葉

女子主将 日下桃子

今年の七大戦は仙台宮城野原で炎天下の中行われました。女子は総合得点7点の4位と、自分達にとって満足のいく結果を出すことができ、一同喜んでおります。楠木の砲丸投と4×100mRで得点したことで、当初立てた「全員得点する」という目標もほとんど達成できました。予想に反して気温が高く、選手にとっては厳しい条件ではありましたが、最後のリレーまで良くがんばってくれたと思います。4位というのは大した数字ではありませんが、4年生もおらず選手6人で今の競技力からすると最高の結果でしょう。特にリレーで52"68のチームベストで3位入賞したことはとても嬉しかったです。来年度は400m、800mの他大学の4年生がごっそり抜けるため、優勝も目指せると思います。どうぞご期待ください。

前々からエールをくださったOBOGの皆様、スタンドからの力強い応援、工藤さん、須藤さん初めとしたコーチやトレーナーの皆様のサポートに支えられ、こうした結果を出すことができたのだと思います。ありがとうございました。そして仙台まで応援に駆け付けてくださったOBOGの皆様、暑い中本当にありがとうございました。一橋戦・京大戦もここ数年負けが続いていますが、今年こそ優勝できるようがんばります。ぜひこちらにも応援に来ていただければ嬉しいです。シーズン後半も変わらぬご指導とご声援をよろしくお願いいたします。

1.4 試合経過

トラック

9:30 男子 3000mSC 決勝

山崎(3年)、青木(1年)の出場。7月5日の順大競技会で青木が9'51"90、山崎が9'51"93を記録し、試合前の下馬評でそれぞれランキング7位と8位につけている。今大会最初のトラック種目であり、チームが勢いに乗るためにも両選手の得点に期待がかかる。快晴で気温30、湿度72%と、仙台の午前にはやや厳しいコンディションでのレースとなった。

序盤は比較的ゆっくりしたペースで集団もばらけず、山崎はスタート直後こそ位置取りに苦労し中盤につけるも、徐々に前に出ていく。青木は集団の中盤で様子を窺う。山崎は1000mを3'17"で通過し、3周目から4周目にかけて積極的に前に出て2番手につける。その一方で、じわじわとペースが上がる中、青木が苦しくなり集団から離されてしまう。山崎も徐々に後退していき、2000mを6'29"で通過後、更にペースを上げた近藤(京大)と島田(東北大)が率いる先頭集団6人から引き離されてしまう。両選手とも懸命に前を追うが一步及ばず、山崎が9'48"14の7位、青木が10'09"48の9位でゴール。

今大会この種目では得点できなかったが、山崎はこのレースで自己ベストを更新し、次につながる走りをした。また青木は初の対校戦で不甲斐ない結果に終わってしまい、相当悔しがっている。両選手とも更に記録を伸ばし、今後の試合で大活躍することを期待したい。

9:50 女子 400m 予選

2組5レーンに日下(3年)が出場。本大会では他に800m、4×100mリレーにも出場することになっており、出来るだけ体力を温存して決勝に進みたいところ。格上の只野(北大)や田中(阪

大)は同組にはおらず、安定した走りが要求される。

スタートにあまり慣れていないのか、他の選手に先行される形でゆっくりした入りとなり、バックストレートでも一人飛び出した金尾(名大)以外は団子状態で前半を消化。第2曲走路付近でも3,4人による2位争いが続くが、300m付近からスタミナのある日下がポンと抜け出す。先頭の金尾が終盤ややスピードを落として走るが、そこまで食らいつくには至らず64"94の2着でフィニッシュ。危なげなく決勝へと駒を進めた。

10:00 男子400m 予選

1組4レーンに兵頭(2年)の出場。昨年はレース展開に惑わされ決勝3位に終わったが、インターハイファイナリストの実績からすれば勿論納得のいく結果ではない。関東インカレ付近から調子を崩してはいるものの、持ち前の気合いで今年は表彰台の一番上を狙う。号砲が鳴る。外側の選手が大きく飛び出すのに比して兵頭はやや後方から戦況を窺う構え。バックストレートで内側から1人上がってくるものの急激なギアチェンジをすることもなく、200m付近で6位程かと思われた。そこから後半の粘り強さを発揮し、第2曲走路で猛然とスパートに入る。外側の選手をごぼう抜きにし、一気に先頭の選手まで食ってかかると思われたが、コーナー出口付近からまさかの失速。350m付近から一旦は抜いた外側の選手にまでかわされ、51"22の5着でフィニッシュ。決勝進出はならなかった。

2組3レーンに小福田(4年)の出場。ジャンプパートでありながら突如49秒台を叩き出し、かつ短距離陣の面子をことごとく潰して本種目の台風の目になった小福田。波に乗る空気の読めない男に俄然期待がかかる。同組に優勝候補の岡村(阪大)があり、うまくついて決勝進出を狙いたい。号砲とともに積極

的に前について行き、ハイペースな試合展開ながら200m付近でもしっかりとトップ集団後方につける。次の300mで集団のスピードが上がったが、これにも慌てることなく対応しラスト100mで猛然とスパート。ガス欠状態の外側の選手を2人も力でもかわし50"03の2着でフィニッシュ。決勝に駒を進めた。3組3レーンに梶岡(4年)の出場。兵頭同様怪我に泣かされた選手ではあるが、腐らない努力で走る態勢を整えてきた。七大でのラストレースを笑顔で飾りたい。梶岡は無難な入り。経験多い梶岡らしく、飛び出した先頭から離されすぎない位置につける。200m付近から若干ピッチを変えて詰め寄るも、逃げ切りを図る先頭が強い。300m付近で5位程かと思われ、バックストレートで余力を振り絞って追走するも、1人かわすのが精一杯で51"25の4着でフィニッシュ。50"63が必要となったプラスに拾われず、予選敗退となった。勢いの差が如実に出たレースであった。

10:25 男子110mH 予選

1組4レーンに増本(2年)の出場。スタートはあまり得意としていないが、今回は抜群のスタートをきり1位で1台目を通過する。中盤は少し力んでしまい4位に落ちてしまうが、後半は立て直し16"13の3着でフィニッシュ。風は-0.9mであった。大学ベストを叩き出し、プラスで決勝に進出した。2組4レーンに尾崎(4年)の出場。前回大会は本業ながら決勝7着に終わった尾崎。今回大会は雪辱を晴らしたいところ。スタートから飛び出し、ぐんぐんスピードをあげていき2位以下を引き離し1着でゴール。このときのタイムは15秒16(-0.9)で決勝に進出した。3組4レーンに酒谷(2年)が出場。いい飛び出しを見せ、1位と並んで1台目に入っていく。中盤を危なげない走りでもとめる。しかしながらソツのある性格が出たのか、10台目でぶつけ大きく

よろめいてしまう。残り数メートルをなんとか踏ん張りきり、15"71の2着でフィニッシュ。風は-0.4mだった。出場した三人全員が決勝に進出した。

10:50 女子100m 予選

1組6レーンに大久保(3年)の出場。熱気は東北特有の涼風に包まれ、蒸し暑さは軽減されている。大久保は冬期にヒザを痛めシーズン序盤は低調な記録からのスタートであったが、自分のペースで練習をこなし七大に向け調子を上げてきた。七大での実績は芳しくないが、直前の練習でもよい動きを見せており、自己ベストか、少なくとも大学ベストを期待させた。実績ある沼田(北大)、富田(京大)らを相手に胸を借りるつもりで望みたい。号砲が鳴る。やや体は浮き上がるも反応よく飛び出し、さらに加速段階で隣のレーンの富田に引っ張られたのが良かったのか40m付近までキレよく伸びる。しかしながら中盤から内側の選手が相次いで抜け出し、レース展開がはっきりしてくると大久保はジリジリと後退。それでも終盤は再度踏ん張りを見せ内側の選手に差し込み、5着ながら13"74の大学ベストを叩き出した。このとき風は+0.2mであった。

2組レーンに清水(3年)の出場。近時の清水は不調に悩まされ、対校戦では四大戦決勝7着など悔しい思いをしてきた。四大戦後、練習内容を見直し自主練習で修正を図ろうと努力、その成果が現れたのか徐々に不調からは脱し始めていたが、13"25を出した昨期ほどの怖さは無く、当日動きがかみ合う事にかかる形。同組の早瀬(京大)が棄権した事でチャンスが広がったが、予断は許されない。清水も号砲への反応がよい。はじめ20mまで一気に飛び出し、レースの主導権を握るかと思われた。しかしながら、40m付近になると上がってくる内側の選手が目に入ったのか動きが堅くなり、姿勢もやや後

傾気味になってしまう。50mを過ぎると最後尾まで後退し、清水も必死の走りを見せるが最後まで失速分を取り戻せず13"85の5着でフィニッシュした。この時風は-2.8mであった。

1組と2組の風の差が激しく、1組がかなり風に助けられる形となった。本学としては清水が予選落ち、大久保がプラスの2番目で決勝に進出した。大久保は七大決勝の舞台で思いきった走りを期待したい。清水は風を考慮しても本人にとって満足のいくタイムではない。この悔しさをバネに、秋以降いい走りを見せてほしい。

11:00 男子100m 予選

1組6レーンに福田(4年)の出場。シーズンイン以来順調に調子を上げてきた福田であるが、未だ表彰台とは無縁。かれこれ10ヶ月以上パートを引っ張ってきたチーフとして意地を見せたいところ。福田はスタートが決まり前半でよい走りができたが、中盤以降隣のレーンの中山(名大)がズズッと出てくるとここで力んでしまったのが硬さが見え、後半に伸びが見られなかった。最後まで焦るあまりややバランスを崩し本意なフィニッシュ。低速トラックであることに加え向かい風が強く、11"41の平凡な記録で組3着に終わり、プラスでの決勝進出に望みを託すも100分の1秒差で決勝に進めなかった。この時風は-2.2mであった。

2組に出場予定であった尾崎(4年)は怪我の影響を考慮し出場を辞退した。

3組目7レーンに都井(3年)の出場。スタートはいつも通りに出られ、40m付近まで両脇の選手とよい競り合い方をするが、中盤で向かい風に押されて失速。後半で優勝候補の吉田(京大)ら内側の選手が出てきたためか硬くなり、最後まで本来の走りを取り戻せず11"54の6着でフィニッシュ。この時風は-1.7mであった。

新旧短距離チーフを投入して望んだ一

戦であったが、残念ながら決勝に進めなかった。京大戦に向け、早急な立て直しが求められる。

11:20 男子 1500m 決勝

割沢(6年)、竹俣(2年)、山田(1年)の出場。経験豊富で調子も良い割沢、長距離のエースである竹俣、2週間前のタイムトライアルで自己ベストを大幅に更新するなど勢いのある長距離パートの山田、3人とも表彰台・入賞を十分に狙える状態で当日を迎えた。

暑さのため予想通りスローな展開になる。集団のままレースは進み400m通過は68”、800m通過も2'15”で、3人とも好位置に付ける。しかし、800m以降徐々にペースが上がり始め、過去2年のレースと同様1000m前後から一気にペースが上がりラスト勝負の展開となる。竹俣は1100m地点でトップに立ちラストスパートをかけ、山田も8番手前後に付けラスト300mでスパートをかける。割沢はこれより後方に付けスパートをかけようとするが、位置取りが悪く振り落とされていく選手にコースを阻まれ、いつもの伸びがない。竹俣は3人の選手にかわされたもののラスト50mで意地を見せ名大の選手を差し4'04”51の3位でゴール。山田は6番手で最後の直線に入り、最後まで気迫を見せるもラスト100mで刺されてしまい入賞まであと一步の4'08”29の8位でゴール。割沢はラストスパート時に足を痛めてしまい最後の直線で失速し4'19”39の18位でゴール。この結果本学は4点を獲得した。

竹俣はこの後に本職の5000mが控えている中、しっかりと結果を残した。山田は入賞には及ばなかったもののチームに勢いを与える走りをし、公認自己ベストも出せた。割沢は最初で最後の七大戦対校で結果を残すことができず、悔しいレースになってしまった。レース中の怪我を治し一橋戦に向けて切り替えてほしい。秋の対校戦では中距離

パートで1500mを戦っていけるよう、この夏で選手の奮起が必要である。

11:40 男子 400m 決勝

7レーンに小福田(4年)の出場。予選記録では4位につけるが、力を余して決勝進出した選手もあり、予断は許されない。レース経験の浅さが吉と出るか、凶と出るか。ハイレベルの戦いが予想されるレースだが、あれこれ考えず思いきったレースを期待したいところ。号砲が鳴る。前半から積極的なペースで飛ばし、バックストレートで1人にかわされるも悪くない位置。200m以降は内側から上がってくる選手の尋常でないスパートに押され、一時最下位にまで転落するが、ラスト50mで猛然と力を振り絞り、ガス欠になった他選手2人かわし、49”84の6位でフィニッシュ。対校得点1点を獲得し、自己ベストを更新した。

思い切りの良さが1点につながった。本業ではないが、短距離陣にプレッシャーをかけ続ける存在であってほしい。

11:55 男子 110mH 決勝

決勝は1レーンに増本(2年)、5レーンに尾崎(4年)、6レーンに酒谷(2年)が出場。短距離種目では唯一決勝に3人を揃えられ、応援にも力が入る。昨年決勝で敗れている松野下(九大)、南(阪大)に尾崎が雪辱を果たせるか。また、関カレ出場など実力をつけてきた酒谷がレースをどう引っ張るか、執念で決勝に滑り込んだ増本がどこまで食い下がるか、非常に面白い状況となった。スタートでは尾崎がいいダッシュを見せるものの、酒谷、増本は少し出遅れてしまう。中盤では集団は中央のレーンの選手を先頭にV字型になり、その中で尾崎は1位争いを繰り広げる。酒谷も不本意なスタートを取り戻し、前との差を詰めようと懸命に走る。増本は集団からやや置いて行かれるも無難に自分のハードルをこなし、戦況を窺う。後半になると尾崎は幅跳びの疲れ

もあり松野下にはおいてかれてしまう。立て直しを図る酒谷、増本もなかなか前の選手には追いつくことができない。結局、尾崎は15"40で2位、酒谷は7,8台目付近で必死に1人をおかわし15"70で5位、増本は16"55の8位でそれぞれフィニッシュ。このときの風は-1.4mだった。対校得点7点を獲得した。増本が躍進し、尾崎は南に雪辱を晴らす一方、酒谷は自己ベストを出したもののスタートを考えれば少々勿体ないレースであった。来年は勢いある2年生2人が表彰台に登れるよう、努力を続けて行きたいところ。

12:10 女子 100m 決勝

1レーンに大久保(3年)の出場。七大の決勝は初となる大久保にとって、相手に不足はない。

号砲が鳴る。予選以上に号砲への反応がよい。集団は4・5レーンあたりを先頭にV字型となるが、大久保は予選同様速い先頭に食らいつく形について上がり、気分良くノビのある加速をする。向かい風の中でもスピードは十分出ているが、集団を抜き去るまではいかず、後方にべったりつける形で50m付近を通過。後半ももう一歩で隣のレーンの選手を食えるかと思われたがやや力んでしまい足が流れる苦しい形に。ラストで差し込みにかかるが、これも集団の一角を崩すまでにはいたらず、13"87の8位でフィニッシュ。この時風は-1.3mであった。

12:30 女子 800m 決勝

日下(3年)の出場。気温が高いが、空は晴れ渡りまずまずのコンディションであった。すでに400m予選を走っているため、本日2本目である。北大の只野は全日本インカレレベルの選手であり、今回は名大の安川との2位争いが予想されていた。

号砲が鳴る。女子の800mはオープンスタートのため、激しくぶつかり合い

ながらのスタートとなる。序盤から只野が後続を大きく引き離し、日下は安川にぴったり付いて3番手でレースを進める。しかし、伏兵・阪大の歌津が後ろから鋭く追い上げ、300m過ぎで日下、そして安川をも抜いていくという予想外の展開となる。日下は安川を抜いて歌津を追い、1周目を69"で通過。その後、後半に強い安川が追い上げを見せ、バックストレートで日下と歌津を抜き去る。日下は4番手に落ちてしまい厳しい展開となるが、ここからスパートを見せ、ラスト50mで歌津をとらえ、2'19"85の3位でゴールした。安川に勝てなかったことは残念だが、内容とタイムとも力を出し切れたレースであったと思われる。今シーズンの不調を払拭するような走りが見られたので、秋には関東新人などでの関カレ標準切りを期待したい。七大戦においては来年は今回の1位2位がいなくなるので、優勝も期待できる。この結果本学は2点を獲得した。

12:40 男子 800m 予選

中距離パートでは3人全員が七大戦の決勝に進むことを昨年の秋から目標に掲げてきており、出場者の今季ベストでは3人全員が8位以内の記録を持ち、目標の達成が十分に可能な力をつけて臨んだ。

1組に川口(3年)の出場。最初から積極的に前に出た川口は1周目を57秒台で通過し、他の選手が牽制しあったこともあって後続と大きく差をつける。しかし500m手前から体が浮き始めると、力を貯めていた選手等の追撃を受け、ラストの直線で食いつくも及ばず1'59"75の3着でゴール。続く2組・3組の結果により、プラスでの通過はならず予選落ちとなった。

2組に坂井(3年)の出場。緊張のためかスタートから動きにキレのなかった坂井は300mで集団から離れてしまい2'02"02の5着でゴール。全く勝負所

のない予選落ちとなってしまった。
3組に渡邊(2年)の出場。腰に不安のある中自分走りをしたいところ。前の二組に比べてハイペースな展開となった。バックストレートで好位置を確保した渡邊は二周目に入ってから快調にストライドを伸ばしていき、1'57"68で実力通りの1着でゴールし決勝進出を決めた。上級生2人が予選落ちするプレッシャーのかかる状況の中、しっかりと仕事をしてくれた。

川口と坂井は、実力を発揮できたとはいえない悔しい予選落ちになってしまった。ともに来年も残る選手なので、この経験をバネに今後の練習と対校戦でがんばってほしい。

13:00 男子 400mH 予選

1組7レーンに赤木(2年)の出場。練習では非常に調子がよく、今回のレースは期待される。1台目をミス、うまく加速できない。そのままずるずると後退していき、このままだめかと思いきや9台目から覚醒、一気に2着争いに参入。後一步のところまで迫るが結局56"39の3位、自己ベストを0"16更新してフィニッシュ。プラスで決勝へ進んだ。

2組3レーンに酒谷(2年)の出場。110mHで予選、決勝と走り自己ベストをだして勢いに乗っている。ただ400mの走り込みが足りておらず不安材料もある。スタートから華麗なハードリングを見せるが、それよりも100mHの疲れが残っていたのかマイチスピードにのれない。そのまま流れに乗れず58"38の3着でフィニッシュ。決勝には駒を進められなかった。

3組5レーンに深澤(4年)の出場。最近深澤はハードリングが安定してきており、今回も好タイムが期待される。前半、インの二人のオーバーに追い上げられるが、落ち着いて自分の走りですべて200mを走り抜ける。10台目のハードルでひっかかってひやっとさせられる

が、ラストは独走で後ろを振り返りながら余裕の57"32の1着でフィニッシュ。予選を通過した。

13:30 男子 200m 予選

梶岡(4年)、福田(4年)が欠場し、舘島(1年)のみが3組3レーンに出場。舘島はチーム内でもずば抜けた自己記録を持ちながら、今季の対校戦では今ひとつ輝きに欠けてきたが、今回はリラックスした状態で当日を迎えており、決勝進出及び得点が期待された。

号砲が鳴る。前半はリラックスした良い走りが見られたものの、ホームストレートに入ってやや動きが固くなり失速。終盤必死に取り戻そうとするも時既に遅し。23"29の組4着に終わり、最低でも22"49が必要となったプラスラインに及ばず、予選敗退となった。多種目出場の梶岡・赤木を温存せざるを得ず、この種目に1名しか出場しなかったのは層の薄さを露呈する残念な事態であったので、来年は決勝で戦えるだけの力を備えた3人を揃えて臨みたい。

14:00 女子 3000m 決勝

鈴木(1年)の出場。気温が32度で強く日が差し、長距離種目にとっては特に厳しい条件ではあるが、自己ベストの更新の期待がかかる。レースはスタート直後から名大の2人が飛ばして先頭を走り、縦一列のような形となる。鈴木も必死にこのペースについていき、1周目を85"で通過する。しかし、このペースは鈴木にとっては厳しく徐々にペースを落とし、1000mを3'45"で通過してからは苦しくなってしまう。その後は後続にどんどん抜かれ、最後の京大の選手には離されまいとするものの1800m地点で置いていかれてしまう。2000mは8'21"で通過し、この後もさらにペースダウンし、13'17"21の12位でゴール。自己ベスト更新はなかった。前回同様前半から積極的な走りを見せてくれたが、4周目以降は

1周110"以上かかり、ラストスパートも見られなかったので、今回の課題はレース展開であろう。一橋戦・京大戦では鈴木の活躍が重要となるので、自分のペースをしっかりと刻み、好結果に期待したい。

14:20 男子4×100m 決勝

男子4×100mリレーは2レーンに都井(3年)、福田(4年)、舩島(1年)、尾崎(4年)のオーダーで出場。圧倒的に強いという前評判の名大、阪大がいることは勿論、他の大学にも全く油断は出来ない。

張り詰めた空気を切り裂くような合図と共に、1走の都井がスタート。100m予選の為か、少し疲れを感じるスタート。しかし、ここからは踏張って、前と大きい差を作らずに2走の福田へ。都井、福田のバトンはいくらでも何度も行われて来たが、今回のバトンパスは特に美しくつながった。2走の福田は100mで決勝へ駒を進められなかった鬱憤を晴らすかのように、ぐいぐいと順位を上げていく。そのまま3走の舩島へ。ここのバトンも上手につながった。舩島も実力通りの力を出し、尾崎主将へバトンが渡る時点で、全体の3位であった。しかし、ここからの最後のアンカー戦に、既に110mH及び走り幅飛びに出場していた尾崎は疲労に勝てなかった。ここから、他校のエース級選手たちに抜かれて行き、最終的に42"68の6位でゴール。

結果的には残念なものとなってしまったが、3走までの競り合いは、七大会の上位も十分に狙えるという、来年への希望を抱けるものであったと思う。

14:40 男子400mH 決勝

2レーンに赤木(2年)、5レーンに深澤(4年)の出場。深澤は予選を流し、体力的にも精神的にも充実して決勝にのぞむ。一方赤木は最近波に乗っており、ランキングを覆しての得点が期待される。

深澤はスタートでは出遅れるが、そこからぐんぐんスピードをあげ、彼らしい走りをみせる。これはいけるかと思われたが、7台目以降足がはずすまで逆足となってしまう、最後、隣にいた九大の選手に競り負けてしまう。しかし自己ベストである55"47の5位でフィニッシュ。赤木は、予選での疲れもあったのか前半からうまくスピードにのれず苦しい走りとなる。8台目をとんだ時点で7位であった。しかしここから、猛然と追い上げ、前を走っていた選手をかわした。結果、56"74で6位に滑り込んだ。

このレースで東大は3点を獲得。今回、深澤は自己ベスト、赤木は執念で本人初の対校得点、1点を獲得、チームに勢いをつけた。深澤はこの後4×400mRもあるので、頑張ってもらいたい。一方の赤木は来年の表彰台が視野に入ってきた。

14:50 女子400m 決勝

6レーンに日下(3年)が出場。得点の獲得が期待されるが、すでに400mと800mを1本ずつ走っており、決して余裕があるとは言えない。戦況としては只野(北大)がやや図抜けた実力を擁しているが、他の選手の実力は伯仲している。

スタート直後はやはり一気に突き放され、先行される形で第1曲走路を抜ける。バックストレートでも4位ほどかと思われ、じりじりと前と差を離される苦しい展開。さらに250m付近では内側からもう1人選手が加わり、5位付近にまで転落。先頭とも差がつかずに300mを過ぎ、万事休すかと思われた。しかし女子主将の意地を見せ、そのあたりで足が止まった前の選手2人を一気に抜き、先頭には大きく離れたものの62"36の4位でフィニッシュした。持ち前の勝負強さで1点を獲得した。

15:00 男子800m 決勝

渡邊(2年)の出場。渡邊は予選から

サードベストとなる1'57"台のタイムを出しており、その疲労具合はやや不安ではあるが、唯一決勝に進めた800系のエースとして、入賞はもちろん、表彰台にも期待したい。

号砲が鳴る。渡邊は予選の疲労から大崩れすることを恐れてか、ゆったりとしたスタートで集団の最後尾につける。決勝は400mを60"で通過するスローな展開となる。2周目からペースがあがっていくと、650mあたりで上位三人が抜けだし渡邊は4位集団に残されてしまう。渡邊は第4コーナー出口から必死にスパートをかけ、混戦となった4位争いを制し、1'59"21の4位でゴールした。むらが大きく、また2本目に弱い選手ただけに、予選をしっかりと通過し、決勝では苦しい中でも4位を確保できたところに成長を感じるレースであった。京大戦ではこのレースで2位入賞した佐藤を崩せるよう、さらなる成長に期待したい。

15:20 男子5000m 決勝

梶井(4年)、竹俣(2年)、東(1年)の出場。竹俣は1500m(3位)に続く2種目出場だが、5000mでも優勝候補であり、長距離のエースとしても厚い期待が懸かる。梶井は最後の七大戦でチーフとしての意地を見せたいところ。東は初の対校戦だが、高校時代の自己ベストが14'50"台であり、7月5日のレースで15'20"49を出すほどに体が戻りつつある。七大戦も終盤に差し掛かり、ここで得点を重ね、少しでもチームの順位を上げていきたいところ。日差しが強いが、比較的涼しい中でのレースとなった。

序盤は京大の前田が集団を引っ張り、落ち着いたペースで一塊となって進んでいく。竹俣、梶井は2番手、東は中盤の7番手に位置付ける。依然大きな集団で1000mを3'08"で通過するが、その後、九大の福井が集団から単独で飛び出し、それに続く2番手集団を竹

俣が引っ張り、東と梶井もそれについていく。その体勢のまま2400mを過ぎた辺りで梶井が集団から離され始める。先頭の福井が差を広げ、3000mを9'21"で通過し、それに竹俣が9'28"で続く。その後、京大の小山(俊)が2番手集団の前に出てペースを上げ、先頭との差を詰めていくが、4000mで再び竹俣が小山を抜き、4200mでついに先頭に追い付いた。ラスト1周になると、竹俣、小山を含む先頭4人が激しいスパート合戦を繰り広げる。竹俣はラスト1000mを2'50"で駆け抜けたが、小山と阪大の松葉に僅差で敗れ、15'20"79の3位でゴール。東は5位争いにラストスパートで惜敗し、15'27"71の6位でゴール。梶井は集団から離れてから苦しい展開となったが、京大の小山(裕)との勝負にはしっかりと勝ち、16'09"11の13位でゴール。

竹俣はこれで1500mとの2種目で8点を獲得する活躍を見せた。東は本人も驚くほど予想外な健闘をし、1点をもぎ取った。梶井は試合1ヶ月前に貧血に悩まされ、ここでは得点争いに絡めなかったが、最後まで諦めない姿を見せてくれた。3人とも夏合宿を乗り越えた秋以降の活躍に期待したい。

15:50 女子4×100m 決勝

4レーンに大久保(3年)-清水(3年)-高山(2年)-日下(3年)の走順で出場。今季ベストでは北大・阪大が50"台と抜きん出ているが、東大・東北大・名大・京大は52~53"台と3位争いは混戦が予想される。東大は四大戦後の1ヵ月半で各自が調子をあげてきており、表彰台に期待がかかる。

1走大久保は100m予選で大学ベストを出し決勝に進んだ好調さそのままの伸びやかな走りを見せ、北大・阪大に続く3番手でバトンゾーンへ。ここで阪大がまさかのバトンミス。阪大がレースから脱落した一方、東大は2走清水へ無事にバトンが渡る。個人種目では

結果を残せなかった清水だが、その分を取り返す力走で1つ外側のレーンの京大・富田によく食らいつき、順位の逆転を許さない。名大・東北大との混戦状態でバトンは3走・高山へ。完璧なバトンワークでバトンを受け取った高山は、バネを生かしてコーナーを力走するが、先頭に行く北大には大きく離され、名大・東北大にもじりじりと差をつけられる。4走・日下へのバトンをきれいにつなぐもこの時点で4位。前を行く名大・東北大との差は5m近くあり、表彰台は無理かと思われた。しかしここから日下が気迫の猛追をかける。ゴール寸前で東北大をかわし、52"68の3位でフィニッシュ。勝負強さを信頼されての4走起用に応え、0.09秒差で表彰台をもぎとった。

学部生だけの52"台及び七大戦での表彰台は、2004年以来、4年ぶりとなる。当時のような関東・日本インカレ級のエース選手を有していない現在のチームであるが、昨シーズンから清水を中心にバトン練習に力を注ぐ方式に転換し、バトンワークと3番手以降の底上げでここまでやることを証明した。その点で、補欠やサポートも加えた女子選手7人全員の総合力を示したともいえる。秋以降の対校戦で、さらに上を目指してほしい。

16:00 男子4×400m 決勝

8レーンに小福田(4年)-梶岡(4年)-深澤(4年)-兵頭(2年)の出場。

1走の小福田は400m予選・決勝の2本、さらに走高跳での疲労のせいか走りに切れがない。レース中何度も頭を下に向け辛そうだ。2走の梶岡はバトンを受け取った時は8位だったがバックストレートで勝負をしかけ6位に浮上する。しかし、ホームストレートで失速し再び7位に転落。7位でバトンを受け取った3走深澤は積極的な走りをして、素晴らしい追い上げを見せる。他校の選手を次々と抜かし3位でアン

カーに繋いだ。4走の兵頭はバトンパスで出遅れ、4位に落ちる。何とか巻き返しを図ろうとするも後半、伸びきれず3'20"84の4位でゴール。

途中、積極的な走りは見られたものの不完全燃焼という感は拭えない。小福田と深澤はそれぞれ400m、400mHで決勝に進出し疲労が溜まっている中、期待に沿う走りをしたと思う。しかし、梶岡と兵頭は動きが固く持ち味を活かすことができなかった。京大戦まで2ヶ月、これからの立て直しが期待される。

フィールド

9:30 男子棒高跳 決勝

大谷(4年)、原(2年)、土居(1年)の出場。湿度の高い、炎天下での試合となった。風は時折横に振れるが、基本的には緩やかな追い風であった。

原は自己ベストが3m10であったが、大会前の練習でターンができるようになり地力をのばしていたため、3m30からの跳躍であった。1跳目は全体的に動きが固く失敗したが、2跳目で綺麗にクリアした。続く3m50は、いずれの跳躍も跳び急いでしまい、脚を上げるタイミングが早すぎて腰が浮かずに、3本とも失敗して試技を終えた。土居は3m70からの跳躍。1跳目で余裕を持って越える。3m80は1跳目を失敗するものの、2跳目ではうまくまとめて成功した。続く3m90も、十分高さに余裕をもって1跳目でクリア。しかし、怪我による練習不足もあって、4m00の跳躍では疲れが見え、3本とも助走が乗らず、まともな跳躍の形にもってくこともできずに失敗した。大谷は跳躍の間隔などを意識して4m00からのスタート。足合わせから時間があいたため、1跳目は落としてしまうが、2跳目で余裕のクリア。4m10をパスした後の4m20も、1跳目は頂点が合わずに失敗するが、2跳目で余裕をもって成功、4m30も1跳目で成功した。続

く4m40では、アップライトの調整に苦しみ、2本を失敗したが、3跳目では胸をかすらせながらも成功した。この辺りから助走に疲れがみえ、4m50もアップライトが合わず3本失敗して試技を終えた。結果、大谷が3位、土居が8位、原が11位となった。

京大戦や来年に向けて、原はポールを曲げての跳躍、土居は基本的な助走練習とポールのランクアップ、大谷は踏み切り姿勢の改善や振り上げの方向の修正などが課題となった。

9:30 男子円盤投 決勝

北川(4年)、谷(3年)、原(2年)の出場今年東大には円盤投を専門とする選手がおらず、正直厳しい展開になることが予想されていた。北川は試合1週間前、山に籠り特別メニューをこなして20m後半投げる自信はあったらしい。しかし気合とともに円盤も空回りし25m82の13位。そして原は棒高跳びと並行しての競技。やはり同時に2種目は大変なのか、24m85で14位。一方、やり投げで前回優勝した谷には円盤でもなんとかやってくれるのでは、という期待が少しは集まっていたかもしれない。しかし3投目に28m49の投擲をし、エイトに入ったか、と思ったが元東大陸上部である阪大の関原が審判の怪しい判定でエイトに入り、谷は惜しくも9位だった。

結果東北大のいかつい3人が表彰台を占め、本学は見せ場をつくれなかった。

11:00 男子走幅跳 決勝

尾崎(4年)、武安(4年)、西田(2年)の出場。焼けつくような日差しとスタンドから届けられる熱気の中で競技は行われた。

尾崎は追い風を味方につけ、7m前後の跳躍を連発。3跳目を終えるまでに7m04の記録を残し3位で折り返す。武安は1跳目から手拍子を求め集中力を研ぎ澄ませるが、足の痛みで踏み切る

ことが出来ない。2跳目以降はパスで、記録なしという結果に終わる。西田は2跳目で今シーズン最大の跳躍を見せるが、わずかにファール。3跳目に記録した6m54で9位となり、惜しくもエイト入りすることが出来なかった。この後、尾崎は7m05までしか記録を伸ばせず順位は4位に落ち、結果本学の獲得点数はわずかに3点であった。3選手とも本来の実力を発揮出来ずに終わってしまい、さらにエースの武安がけがを抱えてしまうという非常に残念な試合内容であった。選手たちには十分な休養と調整を積んでもらい、今後の対校戦での活躍を期待したい。

11:00 男子砲丸投 決勝

北川(4年)、寺島(3年)、原(2年)の出場。いい天気で暑い中試技は行われた。北川はもちろん最近調子の上ってきた原のエイト入り、点取りが期待された。寺島もこの種目の後の専門であるハンマー投に向けてここでいい記録を残して勢いをつけたい。1投目、練習試技から調子のよかった原は9m82と大幅にベストを更新、寺島も9mを越えベスト、いい感じでスタートした。しかし北川は10mを越えない、調子が出ない。寺島は2投目、3投目にしっかり記録を伸ばし、9m31のベストで試技終了。北川は調子が最後まで出ず10mを越えないまま9m52で試技終了。原も記録を伸ばすことは出来ず、3投目で一人に抜かれ9位でエイトに残ることは出来なかった。

残念ながら一人もエイトに残れず点も取ることは出来なかったが、寺島と原はベストであったので今後も頑張ってもらいたい。北川は秋までになんとか調子を戻してほしい。

12:30 男子走高跳 決勝

小福田(4年)、荒井(3年)の出場。正午を過ぎてますます気温が上がる中、予定時刻より少し遅れて競技は開始された。

荒井はOB戦で非公認ながら自己ベストの1m60を跳び、1m65も跳べそうな手ごたえをつかんでいた。1m60から競技を開始した荒井はこれをバーにかすりながらも一回で成功させ、自己ベストを更新した。しかし、つづく1m65では自分の跳躍が出来ずに3回失敗してしまっただけで、荒井は着実に力をつけてきているので、この調子で来年の七大戦で得点できる実力をつけてほしい。小福田は走高跳の前に400mの予選と決勝に出場していて、その疲労による影響が心配されていた。1m75から競技を開始し、これを1回でクリア。疲れていても1m75は確実に跳べるところを見せてくれた。1m80は踏み切りきれずに2回失敗してしまっただけで、3跳目にチームメイトの応援を受けて一際高い跳躍で成功させた。結果、小福田は2回ミスしての記録1m80で8位。惜しくも得点を獲得できなかった。

小福田は今後も400mなどに出場することになると思われるので走高跳では厳しい戦いを強いられるかもしれない。

12:30 女子走幅跳 決勝

清水(3年)、高山(2年)の出場。堀越(D3)が対校選手として抜けてから最初の対校戦となった。各自足合わせを終えた後、定刻よりやや遅れて開始された。猛暑であったが、終始安定した追い風の中での競技となった。清水は向風の中での100m予選に続き、2種目目の競技であった。1跳目は低空飛行気味、2跳目は踏切が合わず駆け抜けてしまっただけで、3跳目に4m13の記録を残した。今回は予選落ちだったが、本学女子選手のなかで随一の走力を持っていることを考えると、跳躍練習を積んで今後の対校戦で5m台の跳躍をぜひ見せてほしい。高山は、3跳目までコンスタントに4m台後半の記録を残していき、安定した跳躍を見せた。1跳目の4m87でトップエイト進出を決めた。エイトに残ってからは、徐々に

助走スピードものってきたように見えたが、残念ながら記録を伸ばすことはできなかった。最終跳躍は上位を目指す思い切った跳躍だったが、ファールとなって、結果は6位であった。

高山は今季順調に記録を伸ばしてきており、5mを目前にしている。また、短距離の大久保、清水の二番手としての活躍にも期待したい。京大戦では本大会3位となった富田や実力者の早瀬を崩せるか注目される。

12:30 男子やり投 決勝

太陽の日差しが容赦なく降り注ぐ、七大戦にふさわしい情熱的なコンディションの中で行われた。東大からは北川(4年)、葉梨(4年)、谷(3年)の出場。北川、葉梨にとっては最後の七大戦であり、集大成を見せたいところ、一方谷は昨年に引き続き優勝の期待がかかっていた。

北川は、円盤投、砲丸投に次ぐ3種目という影響からか、うまく力が出せない投擲が続く。3投目によろやく北川らしい力強い投擲が戻ってきたが、とき既に遅く、43m74の14位であった。葉梨は今年に入ってから足首の怪我になやまされ、思うような投げが出来ていなかったが、七大戦への強い気持ちで何とか出場することが出来た。その1投目は足の影響からうまくとまることが出来ずにファールとしてしまうが、2投目以降記録を伸ばし、43m86の13位であった。

谷は、大会記録の更新と優勝の期待がかかる中、1投目から手拍子をもとめ、60mに迫る投擲をみせ、場内を沸かせる。しかしながら、東北大の超新星、杉本が60mを超える投擲をみせ、大方の予想に反し2位に甘んじることになる。そのせいか谷は力が入りすぎ記録を伸ばせないまま3投を終える。一方、対照的にリラックスした東北大の杉本は、1投目以降も順調に記録を伸ばし、大会記録更新となる63m台の

大投擲をみせる。このまま、引き下がれない谷は気合をこめ、5、6投目で杉本を捉えたかに思えた大投擲を見せるが、5投目は惜しくもファール、6投目も61m58と一歩及ばず、2位という結果であった。

今年の投敵陣はやり投選手が多く、近年まれに見る層の厚さを誇っていた。しかしながら、相次ぐ怪我や、他大学の実力が上がってきたことにより、一番の得点種目となるべきやり投げで、谷の5点のみしか得点することが出来なかった。非常に残念であるとともに、反省すべき点である。この結果を真摯に受けとめ、京大戦では昨年のようなスコルク勝ちを期待したい。

13:30 女子砲丸投 決勝

楠木(3年)の出場。名大と九大の選手が突出している他はほぼ同じ記録の選手が集まり、混戦が予想された。楠木は今季の記録こそ全出場者中5位であるものの、自己ベストでは3、4位の選手を上回っているため、3位入賞と得点が期待された。

楠木は1投目で自己ベストに迫る8m24を投げ、1投目終了時に3位の記録であった。しかし2投目で北大の平島が8m23を投げて1cm差まで迫られ、引き離そうと2投目に力を込めるも先の記録を上回れなかった。結局3投目終了時点で4位と1cm差の3位で後半3投に進んだ。楠木は平島から逃れようという気持ちが焦ったのか集中に欠け、後半3投の記録は尻すぼみであった。が、平島も2投目を上回る記録は最後まで出せず、辛くも勝ち逃げ、結局8m24の3位であった。

楠木は何とか想定される最高の順位を獲得したものの、厳しい試合内容であった。3位から6位までの差は僅か24cmと紙一重であり、この差が来年は覆される可能性も大いにある。楠木は来年までに鍛錬して、1つ抜きんでてほしい。

14:00 男子三段跳 決勝

倉員(5年)、廣瀬(3年)の出場。武安(4年)は右足の太腿を痛めていたため無念の欠場となった。

非常に暑い中での競技となった。選手らは水分補給とともに試技の間にかに疲れをためないかを気にする必要があった。倉員は左足首の怪我の痛みを耐えながら、1、2跳目の跳躍を行ったが、どちらもホップで潰れてしまい、ファールとなった。3跳目は無理矢理着地にこぎつけたが、13m30という、倉員のベストからは考えられないような低調な記録に終わり、エイト漏れとなってしまった。倉員にとっては最後の七大戦であっただけに、非常に残念である。廣瀬は3跳目に自己ベストにあと1cmと迫る14m01の跳躍を見せたが、その後は13m後半に記録が集中してしまい、4位となった。

倉員と武安が本来の力を発揮できれば対校得点を大きく稼げただけに、廣瀬の3点のみに終わったのは期待外れであった。

14:00 男子ハンマー投 決勝

寺島(3年)、千葉(2年)の出場。

寺島は今年40m台の投擲をみせているが、優勝を狙い、さらなる発展を求め最近新技術を導入した。しかし、新技術にはムラがあり、3投目まではまさかの32m台の記録で7番手であった。4投目に37m24を記録し、さあここからというところであったが、その後も思うように記録を伸ばすことができず6位であった。千葉は3投目に30m68を記録し、自己ベストを1cm更新するもエイトには残れそうもなく、記録をもう一度確認して帰ろうとしたところ、ランキング上位だった阪大の選手が2投目終了時でまだ29m台の記録であり、自分が8位であることを発見する。阪大の選手の3投目。千葉は祈りを開始した。祈りは天に届いた。この機会を利用し、4投目に32m32と記録

をのぼすが得点には絡めず、8位で競技を終えた。

この種目東大は1点におわり残念な結果であった。来年の二人の巻き返しに期待したい。

1.5 試合結果

第59回全国七大学対校陸上競技大会
第19回全国七大学対校女子陸上競技大会

於 宮城野原陸上競技場 (H20.8.3)

男子 100m 決勝 (-1.5)

1	中山拓哉	名古屋大	10.95
2	吉田繁治	京都大	10.96
3	江馬彰俊	北海道大	11.02
4	大崎佑摩	九州大	11.19
5	見置高士	名古屋大	11.19
6	山崎雄大	名古屋大	11.22
7	大家賢志郎	大阪大	11.23
8	有村孝	大阪大	11.50

男子 100m 予選

1組 (-2.2)			
3	福田篤	東京大	11.41
2組 (-0.6)			
-	尾崎翔	東京大	DNS
3組 (-1.7)			
6	都井紘	東京大	11.54

男子 200m 決勝 (-1.1)

1	中山拓哉	名古屋大	21.66
2	見置高士	名古屋大	22.09
3	吉田繁治	京都大	22.18
4	江馬彰俊	北海道大	22.20
5	大家賢志郎	大阪大	22.55
6	大崎佑摩	九州大	22.57
7	武田考功	大阪大	22.94
8	久保慶護	京都大	23.07

男子 200m 予選

1組 (-0.5)			
-	梶岡利之	東京大	DNS
2組 (-1.9)			
-	福田篤	東京大	DNS
3組 (-1.6)			
4	舩島一樹	東京大	23.29

男子 400m 決勝			
1	岡村健太郎	大阪大	48.24
2	田中裕志	東北大	48.30
3	萩生翔太	京都大	49.49
4	相澤祐介	北海道大	49.68
5	高野陽介	大阪大	49.80
6	小福田大輔	東京大	49.84
7	小林直人	北海道大	49.92
8	武田裕明	九州大	49.93

男子 400m 予選			
1 組			
5	兵頭直弥	東京大	51.22
2 組			
2	小福田大輔	東京大	50.03
3 組			
4	梶岡利之	東京大	51.25

男子 800m 決勝			
1	山田佳祐	大阪大	1.57.50
2	佐藤翔士	京都大	1.57.68
3	井上博人	名古屋大	1.58.19
4	渡邊拓也	東京大	1.59.21
5	本間亮太	東北大	1.59.23
6	加藤欣也	名古屋大	1.59.49
7	早川慎一	名古屋大	2.00.15
8	田口聖治	九州大	2.06.76

男子 800m 予選			
1 組			
3	川口祐貴	東京大	1.59.75
2 組			
4	坂井啓一	東京大	2.02.02
3 組			
1	渡邊拓也	東京大	1.57.68

男子 1500m 決勝			
1	小山俊之	京都大	4.02.81
2	中山祐作	北海道大	4.04.23
3	竹俣直道	東京大	4.04.51
4	久保孝幸	名古屋大	4.04.84
5	小山裕之	京都大	4.05.30

6	坂口剛志	名古屋大	4.07.29
7	齊藤純	東北大	4.07.58
8	山田竜也	東京大	4.08.29
18	割沢高行	東京大	4.19.39

男子 5000m 決勝			
1	小山俊之	京都大	15.19.01
2	松葉正統	大阪大	15.20.16
3	竹俣直道	東京大	15.20.79
4	村西研郎	名古屋大	15.22.85
5	福井剛志	九州大	15.27.51
6	東大貴	東京大	15.27.71
7	山本崇博	名古屋大	15.37.24
8	前田達郎	京都大	15.40.88
13	梅井俊介	東京大	16.09.11

男子 110mH 決勝 (-1.4)			
1	松野下明弘	九州大	15.09
2	尾崎翔	東京大	15.40
3	岩崎辰也	東北大	15.48
4	南勇一郎	大阪大	15.64
5	酒谷彰一	東京大	15.70
6	一ノ倉聖	東北大	15.99
7	村上卓	北海道大	16.05
8	増本健太郎	東京大	16.55

男子 110mH 予選			
1 組 (-0.9)			
3	増本健太郎	東京大	16.13
2 組 (-0.7)			
1	尾崎翔	東京大	15.14
3 組 (-0.2)			
2	酒谷彰一	東京大	15.71

男子 400mH 決勝			
1	牧祐輝	名古屋大	52.85
2	村上卓	北海道大	54.00
3	柴田智弘	東北大	54.30
4	福田安良	九州大	54.48
5	深澤真楠	東京大	55.40
6	赤木裕	東京大	56.57
7	小間洋和	大阪大	56.88

8 岡本京祐 京都大 59.19

男子 400mH 予選

1 組

3 赤木裕 東京大 56.39

2 組

3 酒谷彰一 東京大 58.38

3 組

1 深澤眞楠 東京大 57.32

男子 3000mSC 決勝

1	近藤学宏	京都大	9.23.14
2	山田唯	京都大	9.26.36
3	佐藤航	名古屋大	9.33.58
4	島田健作	東北大	9.33.81
5	山根裕樹	大阪大	9.36.08
6	松尾直茂	大阪大	9.36.81
7	山崎貴裕	東京大	9.48.14
8	飯塚彬光	名古屋大	9.51.72
9	青木佑樹	東京大	10.09.48

男子 4 × 100mR 決勝

1	名古屋大	41.28
2	北海道大	42.13
3	大阪大	42.22
4	九州大	42.32
5	京都大	42.37
6	東京大	42.68
(都井-福田-拙島-尾崎)		
7	東北大	42.81

男子 4 × 400mR 決勝

1	東北大	3.18.57
2	北海道大	3.19.64
3	九州大	3.20.24
4	東京大	3.20.84
(小福田-梶岡-深澤-兵頭)		
5	京都大	3.22.48
6	大阪大	3.24.95
7	名古屋大	3.25.24

男子走高跳決勝

1	滝川憲	大阪大	1m95
2	竹内将人	北海道大	1m95
3	藤田光	北海道大	1m95
4	岡本聖司	東北大	1m90
5	齋藤達	東北大	1m85
6	吉永光宏	大阪大	1m80
6	藤澤鐘吾	東北大	1m80
8	小福田大輔	東京大	1m80
16	荒井博貴	東京大	1m60
-	倉員智瑛	東京大	DNS

男子棒高跳決勝

1	白井孝明	東北大	4m50
2	秋元一志	京都大	4m40
3	大谷真人	東京大	4m40
4	田中皓介	京都大	4m20
5	西川祐示	名古屋大	4m00
6	小西康晴	京都大	4m00
7	中野祥平	名古屋大	4m00
8	土居富裕	東京大	3m90
11	原湖楠	東京大	3m30

男子走幅跳決勝

1	藤澤鐘吾	東北大	7m15
2	山田博之	北海道大	7m12
3	花谷昂	東北大	7m09
4	尾崎翔	東京大	7m05
5	鈴木一輝	東北大	6m98
6	飯田謙	北海道大	6m90
7	堀内康孝	九州大	6m90
8	井口和之	大阪大	6m84
10	西田昂広	東京大	6m54
-	武安光太郎	東京大	NM

男子三段跳決勝

1	花谷昂	大阪大	14m99
2	井口和之	大阪大	14m69
3	瀧澤翔太	東北大	14m31
4	廣瀬彬	東京大	14m01
5	出口政孝	大阪大	13m73
6	齋藤達	東北大	13m64
7	秋山源	京都大	13m62

8	藤田光	北海道大	13m52
10	倉員智瑛	東京大	13m30
-	武安光太郎	東京大	DNS

男子砲丸投決勝

1	今泉卓真	東北大	12m25
2	菊地晃一	東北大	11m75
3	藤澤鐘吾	東北大	11m52
4	平野実晴	京都大	11m50
5	嶋田研志郎	京都大	11m42
6	前田開樹	大阪大	11m07
7	池田雄紀	東京大	10m75
8	太田祐輔	大阪大	10m37
9	原湖楠	東京大	9m82
10	北川昂広	東京大	9m66
13	寺島孝明	東京大	9m31

男子円盤投決勝

1	今泉卓真	東北大	35m96
2	菊地晃一	東北大	35m54
3	藤澤鐘吾	東北大	35m54
4	太田祐輔	大阪大	31m75
5	佐藤慎祐	京都大	31m42
6	西川祐示	名古屋大	30m93
7	関原孝之	大阪大	30m12
8	三浦雄介	京都大	29m87
9	谷彰一郎	東京大	28m49
13	北川昂広	東京大	28m14
14	原湖楠	東京大	26m54

男子ハンマー投決勝

1	今泉卓真	東北大	45m40
2	池田雄紀	大阪大	41m01
3	三浦雄介	京都大	38m17
4	佐藤敬直	東北大	38m15
5	久下哲寛	京都大	37m66
6	寺島孝明	東京大	37m24
7	佐藤慎祐	東京大	33m05
8	千葉伸宏	東京大	32m32
-	谷彰一郎	東京大	DNS

男子やり投決勝

1	杉本和志	東北大	63m06NGR
2	谷彰一郎	東京大	61m58
3	橋田金重	北海道大	58m79
4	齊藤正輝	大阪大	55m29
5	佐藤慎祐	京都大	53m09
6	前田拓樹	大阪大	51m55
7	西川祐示	名古屋大	51m50
8	藤澤鐘吾	東北大	50m19
14	葉梨輝	東京大	43m89
15	北川昂広	東京大	43m74

男子トラック順位

1	名古屋大	48
2	京都大	47
3	大阪大	32
4	北海道大	30
5	東京大	27
6	東北大	25
7	九州大	22

男子フィールド順位

1	東北大	69.5
2	大阪大	36.5
3	京都大	24
4	東京大	16
5	北海道大	14
6	名古屋大	8
7	九州大	0

男子総合順位

1	東北大	94.5
2	京都大	71
3	大阪大	68.5
4	名古屋大	56
5	北海道大	44
6	東京大	43
7	九州大	22

女子100m決勝(-1.3)

1	沼田亜侑美	北海道大	12.71
2	澤村真由子	大阪大	13.20
3	富田夏希	京都大	13.35

4	絹岡なずな	大阪大	13.40
5	高島知充	北海道大	13.43
6	脇坂美穂子	東北大	13.54
7	成瀬葉香	名古屋大	13.59
8	大久保渥子	東京大	13.87

女子 100m 予選

1組 (+0.2)			
5	大久保渥子	東京大	13.74
2組 (-2.8)			
4	清水蘭	東京大	13.85

女子 400m 決勝

1	只野奏子	北海道大	58.34
2	田中萌子	名古屋大	60.98
3	金尾明日美	名古屋大	61.22
4	日下桃子	東京大	62.36
5	脇坂美穂子	東北大	63.13
6	板倉未来	北海道大	63.21
7	橋本玲奈	京都大	66.04
-	菅野裕美子	大阪大	DNS

女子 400m 予選

2組			
-	日下桃子	東京大	64.94

女子 800m 決勝

1	只野奏子	北海道大	2.13.68NGR
2	安川裕子	名古屋大	2.17.94
3	日下桃子	東京大	2.19.85
4	歌津歩	大阪大	2.20.86
5	藤竹瑞穂	九州大	2.25.61
6	小山倫代	名古屋大	2.26.99
7	那須祐子	九州大	2.27.61
8	今本奈津実	大阪大	2.28.48

女子 3000m 決勝

1	小山倫代	名古屋大	10.20.39
2	青山えりか	九州大	10.33.84
3	山本しおり	名古屋大	10.35.55
4	村野友香梨	九州大	10.38.49
5	柴田沙織	大阪大	11.01.26

6	小海麻美	東北大	11.07.14
7	生川幸奈	大阪大	11.19.35
8	大淵真波	東北大	11.19.90
12	鈴木恵美里	東京大	13.17.21
-	日下桃子	東京大	DNS

女子 4 × 100mR 決勝

1	北海道大	50.25
2	名古屋大	51.87
3	東京大	52.68
(大久保-清水-高山-日下)		
4	東北大	52.77
5	京都大	53.48
-	大阪大	DNF
-	九州大	DSQ

女子走高跳決勝

1	湯澤明夏	北海道大	1m51
2	木本早苗	京都大	1m48
3	菊地亜加里	名古屋大	1m45
4	早瀬紗也佳	名古屋大	1m40
5	加藤ほたる	大阪大	1m40
6	田口蛍	東北大	1m40
7	春田みどり	大阪大	1m30
8	寺田遥香	京都大	1m25
-	楠木千尋	東京大	DNS

女子走幅跳決勝

1	沼田亜侑美	北海道大	5m63
2	高島知充	名古屋大	5m36
3	富田夏希	京都大	5m17
4	菊地亜加里	京都大	5m17
5	宮崎福美	東北大	5m01
6	高山花子	北海道大	4m87
7	春田みどり	大阪大	4m82
8	木本早苗	東北大	4m68
11	清水蘭	東京大	4m13

女子砲丸投決勝

1	小中真由美	名古屋大	11m35NGR
2	青山聡子	九州大	10m71NGR
3	楠木千尋	東京大	8m24

4	平島幸	北海道大	8m23
5	宮崎福美	大阪大	8m05
6	早瀬紗也香	京都大	8m00
7	寺田遥香	名古屋大	7m37
8	藤竹瑞穂	九州大	7m36

女子トラック順位

1	北海道大	16
2	名古屋大	14
3	大阪大	8
4	東京大	5
5	九州大	4
6	京都大	2
7	東北大	1

女子フィールド順位

1	北海道大	12
2	名古屋大	4
3	大阪大	3.5
4	東北大	3
4	九州大	3
6	京都大	2.5
7	東京大	2

女子総合順位

1	北海道大	28
2	名古屋大	18
3	大阪大	11.5
4	東京大	7
4	九州大	7
6	京都大	4.5
7	東北大	4

2 2008年度部内5傑 2008.8.3現在

男子 100m

1	福田篤(4年)	11"20(+1.7)	4.20
2	都井紘(3年)	11"30(+1.4)	5.4
3	春日慶樹(1年)	11"46(-0.3)	8.3
4	藤本元太(5年)	11"50(-0.6)	4.5
5	中嶋毅彰(3年)	11"61(-0.5)	5.31

男子 200m

1	舩島一樹(1年)	23"19(+0.0)	5.31
2	福田篤(4年)	23"34(-0.1)	5.31
3	都井紘(3年)	23"66(-1.2)	5.4
4	春日慶輝(1年)	24"56(-0.3)	5.6
5	水上雄太(2年)	24"64(+0.0)	5.26

男子 400m

1	兵頭直弥(2年)	49"83	4.5
2	小福田大輔(4年)	49"84	8.3
3	深澤真楠(4年)	50"41	5.4
4	梶岡利之(4年)	51"16	6.14
5	舩島一樹(1年)	52"00	5.17

男子 800m

1	渡邊拓也(2年)	1'56"01	4.5
2	川口祐貴(3年)	1'58"30	5.5
3	坂井啓一(3年)	1'58"32	6.14
4	園部竜也(2年)	2'02"85	7.12
5	須田遊人(3年)	2'03"04	5.5

男子 1500m

1	竹俣直道(2年)	4'04"00	6.21
2	山田竜也(1年)	4'08"29	8.3
3	坂井啓一(3年)	4'09"84	5.5
4	割沢高行(6年)	4'11"22	4.5
5	石川恭平(3年)	4'14"24	5.5

男子 5000m

1	竹俣直道(2年)	14'52"69	7.12
2	東大貴(1年)	15'20"49	7.5
3	山田健太郎(3年)	15'25"12	4.20
4	山崎貴裕(3年)	15'27"42	5.5
5	梅井駿介(4年)	15'46"03	4.20

男子 110mH

1	尾崎翔(4年)	15"14(-0.7)	8.3
2	酒谷彰一(2年)	15"70(-1.4)	8.3
3	増本健太郎(2年)	16"13(-0.9)	8.3
4	堀内 敦史(4年)	17"21(+1.8)	5.3
-	原湖楠(2年)	19"44(+1.3)	3.23

男子 400mH

1	深澤真楠(4年)	55"47	8.3
2	赤木裕(2年)	56"39	8.3
3	酒谷彰一(2年)	57"51	7.5
4	江間輝裕(2年)	58"26	7.5
5	門脇啓太(4年)	59"24	6.14

男子 3000mSC

1	山崎貴裕(3年)	9'48"14	8.3
2	青木佑樹(1年)	9'51"90	7.5
3	山口健介(8年)	10'04"74	4.5
4	庄司健太(2年)	10'05"85	7.5
5	梶井駿介(4年)	10'17"67	6.14

男子 5000mW

1	和田光一郎(4年)	24'46"28	6.14
2	北沢太郎(4年)	25'07"04	6.14

男子 10000mW

1	菅野雄大(5年)	48'25"94	5.18
2	北沢太郎(4年)	48'39"79	5.18
-	和田光一郎(4年)	47'39"28	3.23

男子 走幅跳

1	尾崎翔(4年)	7m25	5.25
2	武安光太郎(3年)	7m19	5.25
3	廣瀬彬(3年)	6m68	5.6
4	西田昂広(2年)	6m66	4.5
5	浅沼達也(3年)	5m82	5.3

男子 三段跳

1	武安 光太郎(4年)	14m01	5.17
1	廣瀬 彬(2年)	14m01	8.3
3	倉員 智瑛(5年)	13m82	4.5
-	西田昂広(2年)	13m26	3.23
-	定金駿介(2年)	12m77	3.23

男子 走高跳

1	小福田大輔(4年)	1m80	6.14
2	荒井博貴(3年)	1m60	8.3
-	原湖楠(2年)	1m45	3.22

男子 棒高跳

1	大谷真人(4年)	4m40	8.3
2	土居富裕(1年)	3m90	8.3
3	原湖楠(2年)	3m30	8.3

男子 砲丸投

1	北川昂広(4年)	10m23	4.5
2	原湖楠(2年)	9m82	8.3
3	寺島孝明(3年)	9m31	8.3

男子 円盤投

1	谷彰一郎(3年)	28m49	8.3
2	原湖楠(2年)	25m92	6.14
3	北川昂広(4年)	25m82	8.3

男子 ハンマー投

1	寺島孝明(3年)	40m59	5.6
2	千葉伸宏(2年)	32m32	8.3

男子 やり投

1	谷 彰一郎(3年)	61m58	8.3
2	葉梨輝(4年)	43m86	8.3
3	北川昂広(4年)	43m74	8.3
4	原湖楠(2年)	39m92	5.31
5	杉山聡(1年)	27m10	6.14

男子 十種競技

-	原湖楠(2年)	4127点	3.22-23
---	---------	-------	---------

女子 100m

1	大久保渥子(3年)	13"74(+0.2)	8.3
2	清水蘭(3年)	13"77(+1.9)	4.5
3	高山花子(2年)	14"36(+1.2)	5.31
4	楠木千尋(3年)	14"82(+0.8)	4.13
-	日下桃子(3年)	14"56(+0.0)	3.23

女子 400m

1	日下桃子(3年)	62"36	8.3
2	楠木千尋(3年)	67"15	5.31

女子 800m

1	日下桃子(2年)	2'19"85	8.3
---	----------	---------	-----

女子 1500m

1	鈴木恵美里(1年)	5'46"44	6.14
---	-----------	---------	------

女子 3000m

1	鈴木恵美里(1年)	12'43"59	5.31
---	-----------	----------	------

女子 走幅跳

1	高山花子 (2年)	4m87	8.3
2	清水蘭 (3年)	4m34	7.5
3	大久保渥子 (3年)	4m28	7.5

女子 砲丸投

1	楠木 千尋 (3年)	8m24	8.3
---	------------	------	-----

女子 ハンマー投

1	楠木 千尋 (2年)	22m68	5.6
---	------------	-------	-----

女子 やり投

1	楠木 千尋 (2年)	20m73	6.14
---	------------	-------	------

3 自己記録更新者一覧 2008.6.16~8.3

6/21,22 第196回日体大長距離記録会

1500m 竹俣直道 (2年) 4'04"00

7/12 第114回東海大学記録会

800m 園部竜也 (2年) 2'02"85

7/15 第5回順大記録会

400mH 江間輝裕 (2年) 58"26

3000mSC 山崎貴裕 (3年) 9'51"93

3000mSC 庄司健太 (2年) 10'05"85

8/2(OP),3(本戦) 七大戦 (宮城野原)

100m 川村知正 (3年) 11"60(-0.6)

100m 水上雄太 (2年) 11"94(-0.4)

400m 小福田大輔 (4年) 49"84

400m 水上雄太 (2年) 52"68

1500m 山田竜也 (1年) 4'08"29

1500m 庄司健太 (2年) 4'19"70

1500m 須田遊人 (3年) 4'22"08

5000m 石丸翔也 (1年) 16'52"49

5000m 鈴木俊輔 (1年) 16'57"80

110mH 酒谷彰一 (2年) 15"70(-1.4)

400mH 赤木裕 (2年) 56"39

400mH 深澤眞楠 (4年) 55"47

3000mSC 山崎貴裕 (3年) 9'48"14

走高跳 荒井博貴 (2年) 1m60

走幅跳 畠山剛治 (2年) 5m12

棒高跳 原湖楠 (2年) 3m30

砲丸投 寺島孝明 (3年) 9m31

砲丸投 原湖楠 (2年) 9m82

円盤投 北川昂広 (4年) 25m82

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

8月3日(日)、宮城野原競技場にて行われました七大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの皆様のご氏名を報告いたします。(敬称略)

1955年卒 中森孜郎

1968年卒 小林寛道

1968年卒 湯浅味代士

1969年卒 森茂雄

1976年卒 田上静之
 1979年卒 中谷敬二
 1983年卒 八田秀雄
 1994年卒 工藤麻衣子
 1999年卒 長谷川達也
 2000年卒 加納健史
 2001年卒 新妻拓弥
 2003年卒 橋本武
 2004年卒 熊丸拓郎
 2005年卒 藤田靖浩
 2006年卒 庄司一郎
 2006年卒 吉田和敬
 2007年卒 坂田祐輔
 2007年卒 竹内昌男
 2007年卒 萬澤康雄
 2007年卒 安田理絵
 2008年卒 石井仁也
 2008年卒 今村岳
 2008年卒 大村泰平
 2008年卒 山本祥

皆様の温かいご声援のもと、現役部員一同、大会終了までどうにか戦い抜くことができました。ご多忙のところ、また厳しい暑さの中、お越し下さいましたことに心よりお礼申し上げます。

4.2 行事予定

- 一橋戦
9/6(土) 駒場
- 京大戦
10/12(日) 西京極
- 箱根駅伝予選会
10/18(土) 立川

4.3 訃報

1940年(S15年)卒の山本甚一先輩が7月13日に心不全のため、93歳でお亡くなりになられたとのご連絡がご遺族の方よりありました。また、1967年(S42年)卒の川田治央先輩が、7月26日にお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

4.4 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL: 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail: seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:小福田大輔

〒133-0056 東京都江戸川区南小岩3-5-13

TEL: 090-8046-2117

FAX: 03-3673-5819

E-mail: swe-ep-red19@hotmail.co.jp

主務 小福田大輔

文責: 田中裕一郎